

第2章

防災教育の取組

第1節 全県の推進体制

阪神・淡路大震災以前においては、「防災教育」という言葉すら一般化しておらず、子どもたちに自分自身の命や身を守るための力を養う教育は「安全教育」として教育課程の中に位置づけられていた。安全教育は、①交通安全、②生活安全、③災害安全から構成され、災害安全では、火災から身を守り、安全に避難するための態度や技能を身につけるための訓練を中心に取組が行われてきた。

震災以前の本県の取組をうかがわせるものとして、昭和57年に文部省の自然災害特別研究班が実施した「小学校の防災教育体制に関するアンケート」がある。この調査は、東京、神奈川、静岡、愛知、大阪、兵庫の6都道府県と近隣10県の都市部の小学校1,568校を対象に実施したもので、973校(62.1%)から回答を得た。それによると、本県では、火災を想定した校内での避難訓練はほとんどの学校で実施されているものの、「地域の防災訓練への参加」や「(校内の)ロッカー・戸棚等の落下・転倒・移動の防止」については、他地域に比べて相当低い値が出ている。その背景には、地震災害に対する意識の低さがあったと考えられる(地震災害に対して「不安」と答えた割合は、静岡県56.5%、東京都49.9%に対して、兵庫県は3.9%)。

震災以後、本県では、学校における防災体制の確立に努めるとともに、従来の安全教育に加えて、人間としての在り方生き方を考えさせる「新たな防災教育」を推進するという基本方針を打ち出し、全県的な推進体制の確立を進めた。

1 防災教育専門推進員の配置

県教育委員会では、兵庫の教育の創造的復興を推進するため、平成9年度に、防災教育専門推進員を各教育事務所に配置し、震災の教訓に学ぶ防災教育の推進を図るとともに、各地域の実態に応じた防災体制の充実に努めている。防災教育専門推進員は、県下の市町組合立学校の教員を、現職のまま県教育委員会事務局及び各教育事務所に配置するものである(教育公務員特例法第22条第3項)。平成13年度からは、教育事務所の再編に伴い、10名の防災教育専門推進員が配置されている。

防災教育専門推進員の主な職務は次のとおりである。

①防災教育に関する研修会の企画、実態調査の分析及び評価に関すること

教育事務所単位で実施する地区別防災教育研修会を企画するとともに、講義・演習の講師や研究協議の指導助言を担当する。また、毎年5月に実施している「防災教育実態調査」の集計、分析、評価を行う。

②防災教育の指導内容、指導方法に関する調査研究及び防災教育副読本の活用に関すること

各学校における防災教育の実践事例を収集し、県教育委員会事務局における実践事例集等の作成に情報を提供するとともに、教育事務所において実践事例集を編集するなど、実践交流を行う。

③地域の特性を踏まえた防災体制や連絡体制等に係る調査研究に関すること

県及び市町の防災部局が実施する総合防災訓練に際して、防災部局と教育委員会及び各学校との連絡調整を行うとともに、地区別防災教育推進連絡会議を企画し、市町防災部局、自主防災組織等と連携した学校防災体制の整備充実を進める。

④被災児童生徒の心のケアに係る調査研究に関すること

毎年7月に実施している「阪神・淡路大震災の影響により心の健康について教育的配慮を必要とする児童生徒の状況等に関する調査」の集計等を行うとともに、教育復興担当教員研修会など心のケアに関する研修会や教育復興担当教員配置校訪問において指導助言を行う。

⑤その他の教育復興に係る調査研究に関すること。

2 防災教育推進指導員の養成

阪神・淡路大震災の教訓や「防災教育検討委員会」からの提言などを踏まえ、県下全域における学校等の防災教育の充実に図るため、専門的な知識を備えた教職員を計画的・継続的に養成するための講座を平成9年度に開設し、長期的展望に立った防災教

育の推進に努めている。

防災教育推進指導員養成講座は、[初級編][中級編][上級編]の3講座からなり、それぞれ2日間の日程で実施する。[初級編]及び[上級編]は県立教育研修所で宿泊研修の形で実施し、[中級編]については、1日は兵庫県消防学校等で実技を中心に実習を行い、もう1日は、県内3～4会場に分かれて、地域と連携した学校の防災訓練及び学校防災体制のあり方や、地域素材を活用した防災教育の実践など、

各地域の実態に応じた研修を実施している。原則として、1年目に[初級編]と[中級編]を、2年目に[上級編]を受講する。

防災教育推進指導員養成講座の全体計画及び平成16年の防災教育推進指導員養成講座の詳細は、次のとおりである。

なお、本講座の修了者のほとんどが、平成12年度に設置された震災・学校支援チーム(EARTH)の構成員として活躍している。

〈平成16年度 防災教育推進指導員養成講座 講座内容計画〉

分野	区分	研修内容	初級	中級	上級
応急対策論	講義	災害時の危機管理Ⅰ（発生時における対応）	○		
	講義	災害時の危機管理Ⅱ（危機管理と指導員の要件）		○	
	講義	災害時の危機管理Ⅲ（避難所対応等）			○
	講義	緊急対策と復旧・復興―災害の時系列―	○		
	講義	災害時の防災情報システム（応用）			○
地震基礎概論	講義	災害発生メカニズム			○
	講義	地震災害の特色			○
防災計画論	講義	地域安心拠点構想と学校	○		
	講義	地域防災計画と自主防災組織の役割			○
防災教育論	講義	学校における防災教育の実践Ⅰ（取組の現状発表）	○		
	講義	学校における防災教育の実践Ⅱ（学習指導案）		○	
	講義	学校における防災教育の実践Ⅲ（推進上の諸問題）		○	
報告	講義	学校教育としての防災―地域の素材を活用した防災教育―	○		
演習	演習	防災シミュレーション―緊急時における適切な指示と指導―	○		
	演習	防災ドリル（Q&A）		○	
	演習	フィールドワーク（調査分析）		○	
心のケア	講義	被災児童生徒の心のケアⅠ（基礎知識）	○		
	講義	被災児童生徒の心のケアⅡ（応用編―専門機関との連携）	○		
	講義	被災児童生徒の心のケアⅢ（事例研究）			○
ボランティア論	講義	ボランティアコーディネーターの役割と育成（基礎）			○
	講義	ボランティアコーディネーターの役割と育成（応用）			○
法令概論	講義	災害関連法令要説			○
講話・まとめ	講話	新たな防災教育の取組と「生きる力」の育成		○	
	講話	防災教育推進指導員の責務			○

平成15年度防災教育推進指導員養成講座〔初級編〕

演習・協議：防災シミュレーションを活用した防災リテラシーの向上



グループ分け



フィールド調査



グループ別協議



全体会での発表

〈平成16年度 防災教育推進指導員養成講座【初級編】〉

月日	研修内容・講師等	
6月17日 (木)	講 義	「新たな防災教育」の充実ー「明日に生きる」の効果的な活用ー 神戸大学名誉教授 杉山 明男
	講 義	教員の防災リテラシーの向上ー防災シミュレーションの活用ー 人と防災未来センター 専任研究員 秦 康範 ・DIGの手法とその活用 ・日常の中の防災意識の向上
	演習・協議	教員の防災リテラシーの向上ー防災シミュレーションの活用ー 防災教育専門推進員 ・地震発生を想定した図上シミュレーション ・災害に対する学校の防災体制、災害対応マニュアルの点検
6月18日 (金)	発 表	防災教育の実践ー地域の素材を活用した防災教育ー 「住みよい街へーひのそ島工事にあなたは？」 豊岡市立田鶴野小学校教諭 井添 直樹
	講 義	PTSDへの取組ー心のケアの充実ー 芦屋生活心理学研究所所長 高橋 哲 ・PTSDの発症メカニズムと心のケアの初期援助
	演習・協議	パネルディスカッションー「新たな防災教育」の充実ー 西宮市立浜脇小学校教諭 鈴木 一也 山崎町立山崎南中学校教諭 讃岐 等 芦屋市立山手中学校養護教諭 藤田 睦 県立舞子高等学校教諭 三浦 巡



班別の演習・協議



パネルディスカッション

〈平成16年度 防災教育推進指導員養成講座【中級編】〉

月日	研修内容・講師等		場所
10月4日 (月)	実 習	けが等の応急処置法について 兵庫県消防学校教官 ・三角巾を使ったけがの応急処置の実習	県立広域防災センター
	講義・実習	災害活動における安全管理の基本 兵庫県消防学校教官 ・起震車体験 ・ロープ結索 ・屋内消火栓取扱訓練 ・AFT消火訓練 ・耐熱耐煙室での避難訓練	
10月14日 (木)	神戸・阪神南・阪神北・淡路地区	講 義 「新たな防災教育の推進」 防災教育専門推進員	人と防災未来センター
	演 習	「いざというときにあなたは…」 防災教育専門推進員 ・大地震の発生を想定したシミュレーション	
	実践発表・協議	「地域の実情に応じた防災教育の在り方」 ー『総合的な学習の時間』等における地域素材の活用ー 西宮市立北夙川小学校教諭 山根 佐代子 西宮市立上甲子園小学校教諭 田村 利章	
		人と防災未来センターの見学及び施設・活動についての学習 防災教育専門推進員	
	東播磨中播磨西播磨地区	講義・実習 「加古川市の防災教育の取組」 加古川市防災センター長 小林 孝之 ・施設見学及び体験活動	加古川市防災センター
	講義・演習	「新たな防災教育の推進」 防災教育専門推進員	
	実践発表・協議	「災害時における児童生徒の『心のケア』について」 姫路市立白浜小学校教諭 山田 良一	
	北播磨・但馬・丹波地区	講義・実習 「地域を知ろう 身近に潜む危険ー安全マップづくりー」 防災教育専門推進員 ・地図をもとに会場周辺のフィールドワーク（危険箇所、被害想定）	兵庫県和田山庁舎
	協議	「安全マップづくりをととしての成果と課題」 防災教育専門推進員 ・地図の書き込み結果の発表と協議 ・安全マップづくり、防災教育における災害シミュレーションへの展開	
	講義・演習・実習	「地域の安全・安心の核としての学校の防災体制の充実ー地域と連携した学校防災体制ー」 香住町立奥佐津小学校教諭 真先 寿治 山東町立栗鹿小学校教諭 大槻 裕人 養父市立関宮小学校教諭 坂本 和宏 温泉町立八田小学校教諭 岡本 潔政 ・EARTH員の活動報告 ・防災教育の先進実践例の発表 ・避難所開設訓練の実施方法について（仮設トイレの組立等）	

〈平成16年度 防災教育推進指導員養成講座〔上級編〕〉

月日	研修内容・講師等
10月26日 (火)	報 告 台風23号による但馬地区の被災状況と復旧活動について 防災教育専門推進員
	講義1 台風・集中豪雨と災害 神戸海洋気象台業務課 防災気象官 近藤 豊 ・気象情報を理解するための基礎的知識の重要性と学校教育 ・PUSH情報とPULL情報 ・気象情報の災害情報への変換
	講義2 避難所運営支援と学校 元神戸市立鷹取中学校長 近藤 豊宣 ・神戸市立鷹取中学校における避難所運営 ・震災体験、避難所体験から学んだこと
	講義3 ボランティアコーディネーターの役割と育成 大阪大学助教授 渥美 公秀 ・ボランティアの原点と定義 ・災害ボランティアセンターの設立と取組 ・「わが街再発見ワークショップ」の実践
10月27日 (水)	講義4 地震災害の特色 人と防災未来センター 専任研究員 越村 俊一 ・東南海・南海地震の発生と被害想定 ・津波発生メカニズムと津波災害
	演 習 児童生徒の心のケア 芦屋生活心理学研究所所長 高橋 哲 ・災害時の心のケアの必要性 ・PTSRとPTSD ・初・中・長期援助技法
	講義5 地域防災と学校 長田小学校区防災福祉コミュニティ 本部長 川福 克己 ・避難所運営とコミュニティ ・長田小学校防災福祉コミュニティの設立と街づくり ・地域における学校の役割 ・「コミュニティ安全マップ」づくりの実践
	まとめ 防災教育推進指導員としての責務 企画調整担当課長付指導主事



〔中級〕三角巾を使った応急処置の実習



〔中級〕ロープの結索

図表Ⅱ－2－1 防災教育推進指導員養成講座修了者

〔単位：人〕

校種	年度	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	合計
小 学 校		12	10	16	15	15	13	17	98
中 学 校		9	13	12	8	8	11	9	70
高 等 学 校		7	4	3	6	6	3※	3	32
盲・聾・養護学校		0	0	0	1	1	0	0	2
合 計		28	27	31	30	30	27	29	202

※中等教育学校1名を含む。

3 防災教育研修会の実施

震災の教訓を踏まえ、学校防災体制の整備、「新たな防災教育」の推進・充実、心のケアのあり方等についての講演や実践発表をもとに、互いに実践を交流しながら指導力の向上を図り、効果的な指導方法を開発するため、平成9年度から各学校の防災教育担当者を対象として教育事務所ごとに防災教育研修会

を年2回実施している。

当初は、市町組合立学校については各教育事務所が、県立学校については県教育委員会事務局が実施していたが、平成13年度からは、地域における校種を越えた学校間連携を図るため、両者を統合して各教育事務所が実施している。なお、神戸市と姫路市の県立学校については、1回は市の主催する研修会に参加している。

〈平成16年度 地区別防災教育研修会〉

地区	日時・会場・参加者	内 容	
阪神南	6月2日 尼崎市立教育総合センター (165名)	実践発表	「『新たな防災教育』の充実に向けた防災学習の取組」 西宮市立鳴尾南中学校教諭 北川 敏
		講 話	「震災の教訓が生きる防災教育の在り方」 芦屋市立潮見小学校長 原田 亮
		演 習	「そのとき生きる防災教育の取組を考える」
	11月10日 西宮市役所東館 (166名)	講 話	「震災の教訓が伝えること」 (有)コラボねっと取締役 石井布紀子
		班別協議	「新たな防災教育の充実に向けて」 ・総合的な学習の時間等を活用した防災教育の取組 ・各種マニュアルの整備等、学校防災体制の充実を図る取組 ・保護者、地域、関係機関などとの連携を図った防災訓練の取組 ・心のケアの充実を図る取組 ・阪神・淡路大震災10周年に関わる行事等の取組
阪神北	5月26日 伊丹市立文化会館 「いたみホール」 (143名)	講 義	「地域を素材とした新たな防災教育の推進—DIGの活用—」 人と防災未来センター専任研究員 秦 康範
		演習（班別）	「DIGマニュアルによる演習」 防災教育専門推進員
	8月24日 川西市立川西小学校 (144名)	実践報告	「地震災害からの学校再開について—震災・学校支援チーム（EARTH）の活動を通して—」 宝塚市立光明小学校主査 松本 亨
		班別協議	「学校防災体制の充実に向けて—災害対応マニュアル・避難所運営マニュアルを見直す—」 防災教育専門推進員・EARTH員
東播磨	6月1日 明石市立二見北小学校 (133名)	公開授業	「心のケア」を中心に据えた防災教育 明石市立二見北小学校教諭 大谷 誠
		講話	「防災教育あれこれ—心のケア（リラクゼーション）—」 西宮市立広田小学校教諭 神田英幸
	11月25日 加古川市防災センター (132名)	講 話	「兵庫県の防災体制について」 県防災局防災企画課課長補佐兼防災第1係長 北本 淳
		ワークショップ	「災害シミュレーション」 県防災局防災企画課課長補佐兼防災第1係長 北本 淳
北播磨	5月31日 県立教育研修所 (103名)	実践発表	「新たな防災教育の充実」 稲美町立天満南小学校教諭 山口 収 黒田庄町立黒田庄中学校教諭 遠藤直人
		班別協議（市郡別）	「自主防災の検証—中学校区を中心とした災害シミュレーション—」 防災教育専門推進員
	10月21日 三木総合防災公園 (100名)	研修1	防災センター施設概要説明・施設見学
		演 習	屋内消火栓操作訓練、煙避難体験、起震車体験
		研修2	実大三次元震動破壊実験施設（E-ディフェンス）見学
中播磨	5月25日 福崎町文化センター (46名)	講義Ⅰ	「兵庫県の防災施設について—震災の教訓を生かして—」 県立広域防災センター防災教育専門員 長谷川和正
		講義Ⅱ	「震災・学校支援チーム（EARTH）の取組」 姫路市立船場小学校教諭 福中貴彦
		班別協議	「防災（避難）訓練の工夫—地域の関係機関等と連携した防災体制—」 防災教育専門推進員
	12月1日 香寺町立健康福祉センター (63名)	講 義	「兵庫県の防災体制及び災害（水害）対応ワークショップ」 県防災局防災企画課課長補佐兼防災第1係長 北本 淳
		協 議	「防災教育副読本『明日に生きる』等の活用について」 防災教育専門推進員

地区	日時・会場・参加者	内 容	
西播磨	7月12日 西播磨総合庁舎 (174名)	講 義	「地域社会と連携した防災の在り方」 県立広域防災センター 防災教育専門員 長谷川和正
		班別協議	「新たな防災教育の深化」 ・地域素材、副読本を活用した取組の充実 ・地域社会、関係機関と連携した防災訓練の充実 防災教育専門推進員
	12月9日 上郡町立中央公民館 (166名)	実践発表Ⅰ	「地域における学校の役割」 —地域の避難所としての学校— 赤穂市立有年中学校、上月町立久崎小学校 —災害復旧ボランティア活動— 上郡町立上郡中学校
		実践発表Ⅱ	「学校再開に向けての活動」 —台風23号にかかる震災・学校支援チーム（EARTH）豊岡市派遣— 南光町立三河小学校主査 山仲正博 山崎町立山崎南中学校教諭 讃岐 等
但馬	6月28日 県立但馬長寿の郷 (122名)	講 義	「震災時における児童生徒の『心のケア』について」 姫路市立白浜小学校教諭 山田良一
		講 義	「総合的な学習の時間等における防災教育の取組—DIGの活用—」 人と防災未来センター専任研究員 秦 康範
		演習・協議（班別）	「DIGマニュアルによる演習」 ～中学校区を中心とした災害シミュレーション～ 防災教育推進専門員
	11月5日 日高町・出石町 (106名)	ボランティア体験	台風23号による水害で被害を受けた地域の復旧支援活動
丹波	6月4日 篠山市民センター (65名)	講義・演習	「総合的な学習の時間等における防災教育の推進」 —図上訓練DIGの活用— 人と防災未来センター専任研究員 秦 康範
		演習・協議（班別）	「DIGの手法による防災教育の推進」 防災教育専門推進員
	1月14日 丹波の森公苑 (68名)	実践発表	「地域素材をいかした防災教育の授業実践」 丹波市立新井小学校教諭 西垣雅文 「DIGを取り入れた防災教育の授業実践」 篠山市立篠山東中学校教諭 尾松直樹 「震災・学校支援チーム（EARTH）活動報告」 篠山市立大芋小学校教諭 御川 豊
		班別協議	「防災教育年間指導計画の充実について」 ・地域素材を生かした防災教育の授業実践 ・副読本を活用した防災教育の授業実践 ・DIGを取り入れた防災教育の授業実践 ・地域と連携した防災訓練
淡路	5月31日 —宮町ふるさとセンター (87名)	実践発表	「学校と地域が協同行う防災教育」 太子町立太田小学校教諭 丸尾 俊
		班別協議	「防災体制の整備・充実を図るための取組」 防災教育専門推進員・EARTH員
	10月18日 —宮町ふるさとセンター (87名)	講 義	「東南海・南海地震発生メカニズム等について」 県防災局防災企画課課長補佐兼計画係長 石田勝則
		ワークショップ	「東南海・南海地震における防災対策」
神戸市	7月27日 人と防災未来センター (59名)	講 話	「防災についてのシミュレーションをする新たな防災教育（DIG）について」 人と防災未来センター専任研究員 秦 康範
		班別協議	「防災教育への取組」 防災教育専門推進員、神戸市総合教育センター指導主事
		施設見学	人と防災未来センター見学
姫路市	8月26日 姫路市職員会館 (159名)	講 演	「炎の中、別れ悲痛」 元警察官 吉田輝男
		演 習	「防災マスター訓練」 姫路市立網干中学校教諭 照本忠光

4 防災教育研修会の実施事例

■平成15年度 但馬地区第2回防災教育研修会 防災教育研究授業

但馬地区では、年2回の防災教育研修会のうち、第1回では、講義とそれを踏まえた協議（分散会）を行い、第2回では、管内の4～5校の小・中学校を会場として研究授業を実施している。

平成15年度の実施概要は次のとおりである。

ねらい 防災教育副読本「明日に生きる」や地域素材を活用した授業研究を通して防災教育の一層の充実を図る。

内 容 公開授業の参観と研究協議、分散会での実践交流

防災教育研修会における授業研究は平成11年度から実施しているが、平成15年度は特に若い教員の実践が多く、防災教育の授業づくりが着実に浸透してきている。但馬地区をさらにいくつかの地域に分けて研究授業を行うことにより、研修参加者の当事者意識が高まり、研究協議においては校種間の意見交流が活発に行われている。

震災以後但馬地区においても、実践事例の収集や地域素材を用いた教材の開発に努めているが、研究授業を通してその成果が蓄積されてきている。また、いくつかの学校が研究授業を担当することで防災教育への認識が深まり、平成15年段階で小・中学校とも8割近い学校で防災教育カリキュラムが作成されるなどの成果があがっている。

日時	学校名	授業者	学年・教科	内 容
11月 11日（火）	香住町立奥佐津小学校	門脇美穂	第3学年 道徳	「ありがとう」（「あすに生きる」より）
20日（木）	関宮町立関宮中学校	安東博之	第1学年 社会科	「自然からみた日本の特色」
21日（金）	浜坂町立浜坂小学校	井上貴至	第4学年	「わたしにとっての地震」（明日に生きる）より
27日（木）	朝来町立朝来中学校	衣川昭義 三木恵介 林謙二郎 菊池啓子	第2学年 総合的な学習 の時間	「人と防災未来センターに学ぶ」 *人と防災未来センターでの学習成果の発表
28日（金）	豊岡市立田鶴野小学校	井添直樹	第6学年 総合的な学習 の時間	住みよい街とは —ひのそ島の工事にあなたは？—

■平成16年度 北播磨地区第1回防災教育研修会 DIG（災害図上訓練）への取組

北播磨教育事務所では、平成15年度の第1回防災教育研修会から、人と防災未来センターの指導のもとDIG（災害図上訓練）を研修に取り入れており、管内の小・中学校における防災訓練の事前研修等にもDIGが活用されている。

平成16年度北播磨地区第1回防災教育研修会では、平成15年度のDIG研修を発展させ、各学校の校区地図をもとにした災害シミュレーションを行った。

演習に際して、管内各小・中・高・養護学校の防災教育担当者が勤務校の校区地図を準備し、その地図へ書き込みを行った。設定課題は次の通りである。

1 以下の要素を地図に書き込む。

- ①児童生徒の通学路
- ②防災関連施設（病院、消防署、防火用水等）
- ③児童生徒の避難場所

課題を地図に書き込み、災害を想定したシミュレーション（地図への書き込み）を行った。

〈想定した災害〉

平日13:00 山崎断層を震源とする地震発生
地震規模／マグニチュード7.7
最大震度／6弱
学校周辺一帯、停電、断水状態

2 想定した災害をもとに以下の要素を書き込む。

- ④児童・生徒が避難場所に集合するまでの経路
 - ・けが人が多数点在している
 - ・校舎の一部が通行不可
- ⑤停電、断水による影響
- ⑥災害対策本部の場所
- ⑦校舎等の開放区域

3 その他、考えられる要素を書き込む。

公衆電話の場所(災害時に有効)、水道以外の水源の場所、児童生徒の引き渡し場所、ブロック塀(倒壊による被害が考えられる)等

4 校区地図をもとにしたDIG演習の成果

防災教育のためだけでなく、地域を知る、地域について学ぶという姿勢で地図への書き込みを行った。中学校区を基本にグループを作り、書き込み作業、災害シミュレーション等を行ったが、担当者間で前任校の情報等も交換され、災害に対する地域の特質等について積極的な研修ができた。

DIG本来のスタイルは、数名のグループ単位で1枚の地図への書き込みを行い、その内容を全体場で発表することで、演習参加者が共有するものである。上記のように担当者一人ひとりが勤務校の校区地図に書き込むスタイルでは、演習が深まらないのではないかと危惧したが、隣接する学校担当者との協議や、小学校と中学校での校区や通学路の確認、さらには高等学校と周辺の小、中学校の位置関係の確認など効果的な研修ができた。

今後、防災教育充実のための一つの方法として、

児童生徒が自らの力で地図への書き込み作業を行うなど、DIGを教材化するにはどのような点に配慮すればよいかが、研究課題である



情報交換をしながら、それぞれの校区の地図に要素を書き込んでいく。

＜アイキャッチャーを使った校区安全マップづくり＞

◆「アイキャッチャー」を使った「校区安全マップ」(実践例)



◆「アイキャッチャー」の例



阪神南地域教育推進会議第1委員会では、「地域の子どもは地域で守る」という考えのもと、独自のアイキャッチャーを考案し、それを使った「校区安全マップ」づくりに取り組んでいる。

通学途上、児童生徒の安全が脅かされる事件が発生するなか、PTA等と協力した「校区安全マップ」の作成が広がっている。しかし、校区が隣接している地域や市境、さらに転出入の多い地域では、なかなか近隣の状況がわかりにくいという事情がある。そこで、それぞれの学校で作成している安全マップに共通性を持たせ、校区を越えた理解が進むように、共通の標識「アイキャッチャー」を編み出した。

委員会では、西宮市立上ヶ原南小学校校区をPTAの方と一緒に歩き、危険箇所を調査するとともに、適切な「アイキャッチャー」を考案し、それを地図に貼り付けて「上ヶ原南小学校校区安全マップ」を作成した。

今後は、アイキャッチャーを活用して、各小学校区を中心にPTAや地域の方々が一緒になって校区安全マップづくりに取り組み、現地にもアイキャッチャーを掲示するなどして、大人と子どもが安全について話しができるように提案していく。